

子どもセンターばあん 来館者20万人達成

開館してまもなく4年を迎えようとする「子どもセンターばあん」の来館者が3月4日、延べ20万人を達成しました。20万人目は友だちと一緒に遊びきた南第一小



20万人目の来館者になった天野光二君（写真左）

学校6年の天野光二君で、「ばあん」ではお祝いに、手作りの記念品をプレゼントしました。これからも「ばあん」をよろしくお願いします。



65か国(日本も含む)の通貨が集まりました

難民の子どものための生命と健康を守るために、「ユーロへの切りかえなどでご家庭で眠っている外国通貨を寄付して下さい」と募金を行ったところ、市内外の多くの方々から、各国の紙幣や硬貨をお寄せいただきました。

市では、町田市ボランティア連絡協議会委員の方の協力を得て、個別に、そして日本円に換算しましたが、65か国(日本も含む)の紙幣、硬貨が集まり、総重量は203kg、内訳は、3月12日現在、円換算できた額だけでも149万5642円あり、なお、硬貨が129kgありました。寄付された金額は同日、日本ユニセフ協会に持参しました。同協会では、開発途上国の子どものための生命と健康を守るために、活用させていただきます」と語っていました。

子どもの ショートステイ・ トワイライトステイ スタートします

保護者が、疾病等の社会的な理由によって家庭での子どもの養育が一時的に困難になったときなどに、短期間お子さんを預かるショートステイ、保護者が仕事などの理由によって帰宅が夜間になるとき、お子さんを預かるトワイライトステイが、4月8日からスタートします。

・預り先：バット博士記念ホーム
・マルガリータ 797-0063

対象：市内在住の2〜12歳の児童

サービス開始：4月8日から
利用料金：ショートステイ 1日4000円、トワイライトステイ 1時間区分により1000〜3000円
免除規定があります。
申し込み：4月1日から町田市子ども家庭支援センター（☎710-1525）へ。
3月中のお問い合わせは、児童福祉課（☎724-2137）へ。

149万円を超える寄付が集まりました 難民支援に役立てるための募金

第74回選抜高校野球大会に出場する日大三高の健闘を願う壮行会が、3月9日、ぼっぼ町田正の市民の熱い拍手に迎えられながら、面広場で行われました。応援に駆け付けた、約300人の市民の熱い拍手に迎えられながら、

日大三高 3季連続出場 春の甲子園へ



か選手が入場し、壇上にあがりました。

挨拶にたった町田市長は、「またもや日大三高が甲子園に出場することになり、皆さんと一緒に壮行会を開催することができました。甲子園では昨夏の夏の大会全国制覇など数々の成果をあげてきました。そして何人もの選手がプロに進み、市にとって市民にとって誇りに思える学校であります。日ごろの成果を十分に発揮して頑張ってきて下さい」と激励しました。その後、選手を代表して野崎主将が「甲子園では、つても多く勝つてくるように頑張ってください」と力強く抱負を述べました。

最後に花束贈呈、校歌演奏が行われ、大きな声援と拍手で選手を送り出しました。

3か所目の病後児保育施設 医療機関併設型の 病後児保育室がオープン

保育園に子どもを預けて就労している家庭にとって、子どもの病気の看護のため何日も仕事を休まなければならないことは大きな負担です。

こうした家庭の支援のため、市では現在、病後児保育の専用保育

室を2か所設置し、生活の面の充実を力を入れています。

しかし、病気の回復の、より早い段階からの受入れを望む方が多いことから、4月1日から新たに医療機関に併設するタイプを設置することにしました。

【医療機関併設タイプ】はやしクリック(厚生2 29 20 ☎793-3722)

対象：満1歳以上で市内の認可保育園に通園している児童及び市内在住で市外の認可保育園に通園している児童

あらかじめ、施設で利用登録をして下さい。

利用時間：午前8時30分〜午後5時30分
定員：4人
利用者負担：1日3000円(実費負担。生活保護世帯及び前年度分の市町村民税が非課税の世帯は無料。前年度の所得税が非課税の世帯は15000円)

町田児童福祉課 ☎724-2138

町田に静かな空をかえせ
米軍、政府関係機関に米空母艦載機による離着陸訓練の中止を要請

2月27日、防衛施設庁東京防衛施設局から、厚木基地において3月12日の午後6時から10時まで、夜間連続離着陸訓練(NLP)を実施するとの通告が市にあり、市では早速、3月4日、神奈川県及び厚木基地周辺7市とともに、在日米海軍司令官、厚木航空施設司令官、駐日米国大使に対し、訓練の中止を、また、防衛施設庁、防衛庁、外務省に対し、訓練の中止を米軍に申し入れるよう要請しました。同日、東京都も同様の要請をしています。

要請に対し、米軍からは「NLPは最大限硫黄島で実施するよう努力するが、厚木基地で実施する場合は低騒音型の航空機で行い、周辺地域にかかる影響を最小限に抑えるべく努力します」との回答が、また防衛施設庁など政府機関からは「硫黄島でNLPを実施するよう米軍と調整します」との回答がありました。

今も、米軍機の訓練日程や飛行スケジュールについて、米軍はNLPを除いて地元自治体にさえ、いつ公表していません。

町田市及び厚木基地周辺自治体による過去再三にわたる要請にもかかわらず、訓練飛行による騒音は昼夜を分かたず発生し、日常生活に大きな支障をきたしているだけでなく、住宅密集地での墜落事故で連想させるなど、市民に不安と恐怖を抱かれています。そのような中、NLPを実施することは、耐え難い騒音に苦しんでいる市民の感情を逆撫でするものであり、市としては、このようなことを決して容認することは出来ません。

今後、町田市では、東京都、神奈川県や基地周辺の各市とともに、NLPなどの訓練飛行の中止を強く要請していきます。

【NLP】
NLPとは艦載機が空母に着陸するための訓練として、基地の滑走路を空母の甲板に見立てて連続して離着陸を行う訓練であり、空母の出港が近くに行われるものです。米空母キアイホークは、横須賀を事実上の母港としており、入港中はその艦載機が厚木基地を拠点に訓練飛行を行い、その結果さまざま騒音被害を周辺地域にもたらしています。